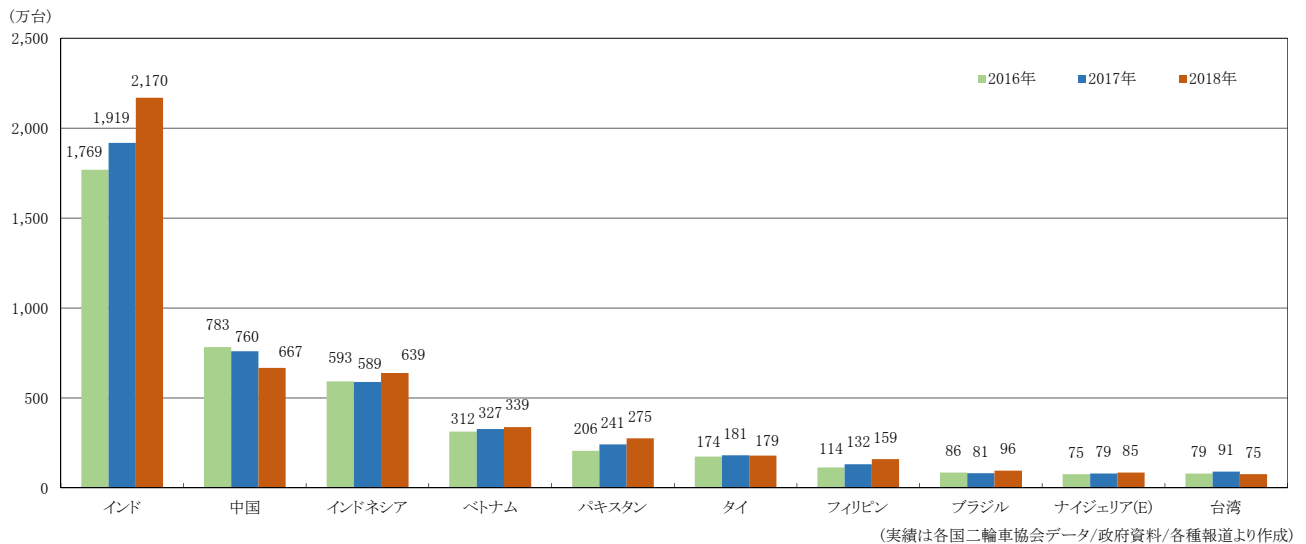


世界二輪車市場の現状と将来展望

世界の二輪車販売(アフリカ全市場の推測値を含む100ヵ国以上を対象)は、2015年に中国株や原油価格が暴落し、アフリカや中南米を中心に資源国や新興国の経済低迷したことから、同年に5,100万台にとどまった。その後、2016年に緩やかに景気が回復、2017年以降は回復が本格化し、アフリカの需要が回復したほか、世界最大の二輪車市場であるインドの農村部や周辺国の所得向上で南アジアでの需要が急増し、2018年に5,760万台へと拡大した。2019年以降は米中貿易摩擦による世界経済の減速や原油価格の下落などで需要が鈍化するほか、2020年にはインドで排ガス規制強化による二輪車価格の上昇と生産調整などで5,500万台割れとなることが予想される。2021年以降は、再び南アジアを中心に回復に転じ、世界的な経済危機が起こらなければ、2030年に世界二輪車市場7,000万台が期待される。特に、インド、パキスタン、バングラデシュの南アジアで、1,200万台以上の市場拡大が見込まれるほか、フィリピンやアフリカでも100万台を超える需要増が見込まれる。一方、二輪車の走行規制や総量規制を実施している中国で市場の縮小が続く見通しで、2030年頃に500万台規模まで縮小することが予想される。また、二輪車の保有比率が1台当たり2~3台と普及率が高いベトナムでは市場縮小に向かう可能性がある。

【二輪車販売台数上位10ヵ国(2016~2018年実績)】



【地域別二輪車販売台数(2015~2018年実績、2019~2030年予測)】

